

教材研究ノート№3-A-17

①本時を構想する上でポイントとなる素地

○問題解決のための知識・技能

・わり算の意味が分かり，おはじきを使って答えを求められる。

・乗法が用いられる場合が分かり，乗法九九が確実にできる。

○既習とつなぐ見方・考え方

・わり算は，同じ数ずつ最大限分ける計算ということを，操作活動と結びつけて学習している。

○共同追究でのゆさぶり

・わり算をかけ算と結びつけて計算する経験は初めて。

○ゆさぶりに対応する経験

・4×5＝20も，20÷5＝4も，操作は違うが同じ図になることを学習している。

≪学習問題≫

イチゴが□こあります。5人で同じ数ずつ

分けると1人ぶんは何こになりますか。

≪学習問題≫

主眼

授業計画･実施記録

１　課題とまとめを一体のものとしてとらえるには

②見通し:おはじきを使うから，正しいけど速く答えが求まらない。

→いくつかの場合を求めて，答えから計算を考えればよい。

②学習課題:いちごの数を変えて答えをもとめ，式と答えから，速く計算できる方法を考えよう。

③個人追究:おはじきや図を使い，式と答えを説明する。

④共同追究前半（解法の比較検討）

「気づいたことを発表しよう。」

「どの式でも同じように言えることは何だろう？」

→「（答え）×5＝（イチゴの数）と見ることができる。」

④共同追究後半（思考を深める）

「他の数でわる時も，かけ算九九が使えるのか？（12÷6）」

→「12個のイチゴを6人で分けるときは，図（略）のようになる。12を求める計算は，2×6で求められるから。」

「本当は2の段だけど，2は分かっていないし，かけ算はかける数とかけられる数を反対にしても答えは同じ。」

⑤まとめ（児童生徒の言葉で）

・わり算は，かけ算の反対の計算と考えることができる。

・÷（いくつ）にあたる数の段の九九を使えば，はやく求められる。

⑥定着･活用問題

54このイチゴを6人で同じ数ずつ分けると，1人ぶんは何こになりますか。

式と答えのほかに，計算のしかたを書きましょう。

≪定着・活用問題≫

＜本時の展開に当たっての留意点＞

・条件が不足している学習問題である。問題提示後の子どもの反応やつぶやきを丁寧にとらえて位置付け，条件設定の必要に気づかせたり，問題づくりの要領を理解させたりするとよい。

・数値が変わる中で，変わらないきまりがあることへの着目を強調し，図形の性質を発見したり事象を関数的な見方でとらえたりする学習へとつなげたい。

【板書計画】